

ムーンショット 目標 8

公開シンポジウム2024

2050年の極端風水害の低減に向けて －防災・減災手段としての気象制御の可能性－

■開催日時：2024/12/6(金) 15:00 – 18:30

■会場：御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター
オンライン (Zoom Webinar)

■参加費：無料

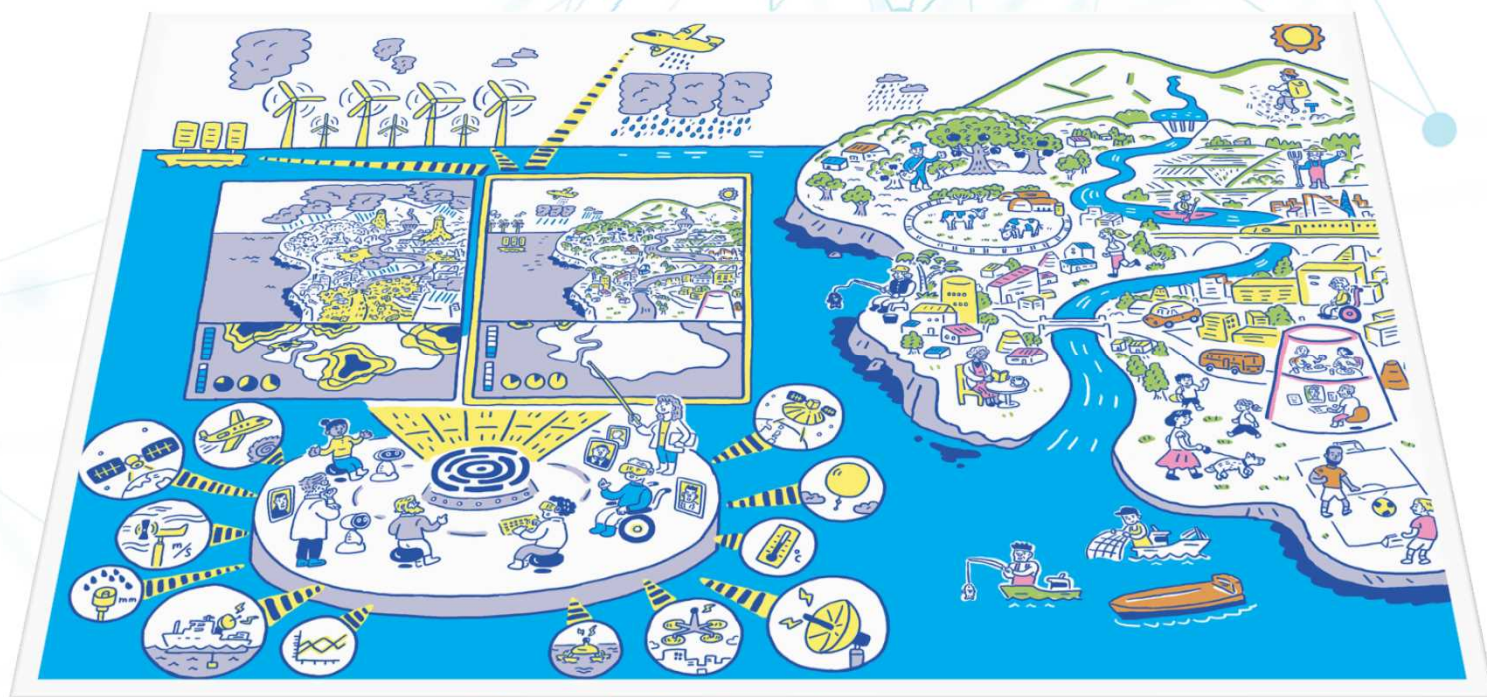
■言語：日本語

■ウェブサイト：

<https://www.jst.go.jp/moonshot/sympo/20241206>

■主催：国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)

■共催：内閣府、文部科学省



気象制御は極端風水害の猛威を緩和する手段となり得るか？その可能性を見極めることが研究プログラムの最初の目標です。その目標にどこまで迫れているのか、特に、社会とともに歩む防災・減災手段としての気象制御の可能性をアピールすることを強く意識しながらプログラムの研究進捗と気象制御の将来展望を一般社会に向けて広く情報発信します。

本公開シンポジウムでは、最先端のシミュレーション技術に基づいて徐々に明らかとなってきた気象制御の作用とその効果、気象制御を支える基盤技術について紹介します。さらに気象制御を社会実装する過程で取り組みが求められる、倫理的・法的・社会的課題についても議論します。

【プログラム】

15:00	開会挨拶 国立研究開発法人科学技術振興機構 来賓挨拶 内閣府
15:10	ムーンショット目標8 概要説明 三好 建正PD（理化学研究所 計算科学研究センター チームリーダー）
15:25	プロジェクト進捗報告 1 「社会的意思決定を支援する気象－社会結合系の制御理論」 澤田 洋平PM（東京大学 大学院工学系研究科 准教授） （代理発表）南出 将志（東京大学 大学院工学系研究科 助教） 「安全で豊かな社会を目指す台風制御研究」 筆保 弘徳PM（横浜国立大学 総合学術高等研究院 台風科学技術研究センター長） 「ゲリラ豪雨・線状対流系豪雨と共に生きる気象制御」 山口 弘誠PM（京都大学 防災研究所 准教授） 「海上豪雨生成で実現する集中豪雨被害から解放される未来」 小槻 峻司PM（千葉大学 国際高等研究基幹／環境リモートセンシング研究センター教授）
16:25	質疑応答
16:40	休憩
16:55	プロジェクト進捗報告 2 「台風下の海表面での運動量・熱流束の予測と制御」 高垣 直尚PM（兵庫県立大学 大学院工学研究科 教授） 「局地的気象の蓋然性の推定を可能にする気象モデルの開発」 西澤 誠也PM（理化学研究所 計算科学研究センター 上級研究員） 「大規模自由度場のアクチュエータ位置最適化」 野々村 拓PM（名古屋大学 大学院工学研究科 教授） 「台風制御に必要な予測と監視に貢献する海の無人機開発」 森 修一PM（海洋研究開発機構 地球環境部門大気海洋相互作用研究センター上席研究員）
17:35	質疑応答
17:45	気象制御におけるELSI 松山 桃世（東京大学 生産技術研究所 准教授）
18:00	総合討論
18:25	閉会挨拶 三好 建正PD（理化学研究所 計算科学研究センター チームリーダー）